

市民学習会

子どもたちの心が評価されます
来年度から「道徳」が教科になります

6月10日(土)午前10時から和泉コミセンで、午後2時から高石デージー・ドームで、「道徳」の教科化に向けて市民学習会が開かれました。次の学習指導要領では道徳が教科となり、小学校は2018年度から、中学校は2019年度から本格実施されます。そのため、今年度は小学校で、文部科学省の検定を受けた道徳の教科書の中から教科書採択が行われます。教科になると、評価がつけられることになり、教科書の使用義務も生じます。様々な問題を、子どもと教科書大阪ネット21事務局次長の永石 幸司さんにお話をうかがいました。

子どもの心を
評価する基準

評価基準となるのは、学習指導要領に示す内容項目「徳目」です。

文科省が指導方法などを示した学習指導要領には、小・中学生に身につけてほしいとする内容項目が、学年ごとに19～22項目列記されています。

道徳は内心の自由に関

客観的・学問的な
根拠のない検定基準

わる問題です。個人の価値観や内面を教科でコントロールし、評価することには不安の声が広がっています。

道徳には人文科学や社会科学、自然科学のような体系的な学問はありません。徳目を根拠にした教科書の検定は、客観的・学問的根拠のない検定基準のために、恣意的な検定がまかり通ってしまう可能性ががあります。

子どもたちに徳目がすり込まれていく構造になっていることが危惧されます。

画一的な印象の
検定結果

3月24日、小学校道徳教科書の初の検定結果が公表されました。

検定の意見数は、道徳教科書初めての検定としては異例の少なさで、発行者側が自主規制したことがうかがわれます。

その端的な例が、『私

たちの道徳』や『小学校道徳の読み物資料集』

(いずれも文科省著作)に掲載された「定番」の作品がどの教科書にも多

様されていることに表れ

ています。画一的な印象

で、どれも似たような横

並びの内容になりました。

パン屋×
和菓子屋〇

初めての道徳教科書の検定では、学習指導要領の内容項目の記述の徹底を求める意見が目立ちました。

実際に子どもたちが使う教科書で書き換えられた内容をみてみると：

その一つが「伝統文化の尊重、国や郷土を愛する態度」に照らして「扱いが不適切」という意見です。ある出版社は「パン屋」を「和菓子屋」に変えて検定に合格しました。

これで「伝統文化の尊重、国や郷土を愛する態度」を育てられるというのでしょうか。子どもたちにとって身近なものはどのようなのでしょうか。

参加者の感想

このような集会を開いていたに感謝しています。泉北の現場の先生のお話、全く同感です。私たちが今まで使ってきた平和教材も全く違う観点から組み立てられています。そして文科省が押しつけようとしている価値観に導こうとしているいます。そこをこれからしっかり学習していきましよう。

・「道徳」の教科化の問題がわかりました。今夏の教科書採択の住民のとりくみをしておくことが、

来夏の中学校「道徳」の教科書採択のとりくみにつながることもわかりました。とても勉強になりました。ありがとうございました。ありがとうございました。

・小学校に道徳、英語を

入れられるということ、

先生たちも大変だろ

うし、子どもたちも

授業時間が増えてど

うなるのかと思っ

ています。道徳の教科

化は、今日学習させ

ていただいて、知れ

ば知るほど知らない

ものだと思います。



平成30年度使用教科書展示会場

和泉市教育センター

6月1日(木)～7月5日(水) 9:30～16:30 土・日・祝日休館

高石市立教育研究センター

6月12日(月)～7月20日(木) 10:00～17:00 土・日曜休館

忠岡町役場

6月1日(木)～7月5日(水) 9:30～16:30 土・日曜休館

「共謀罪」強行採決に反対の声を上げよう。